



~~24~~ ~~27~~ = 2頁5,

26-29

30-31

九月

(12)

妻ウ子らとかこめる朝の膳カウへ鎌倉上マトは
 牛乳トハムトマトの鎌倉朝カ食卓は秋の
 光うつく
 東京のつとめに立つるあかつきの松泣く風
 秋とふりけり
 東京行の汽車はつあけの停車場の上いちめん
 に秋霧こむる
 雨霧こむる停車場貴入わが門の松の秀ほつ枝えは
 はのかにし見ゆ

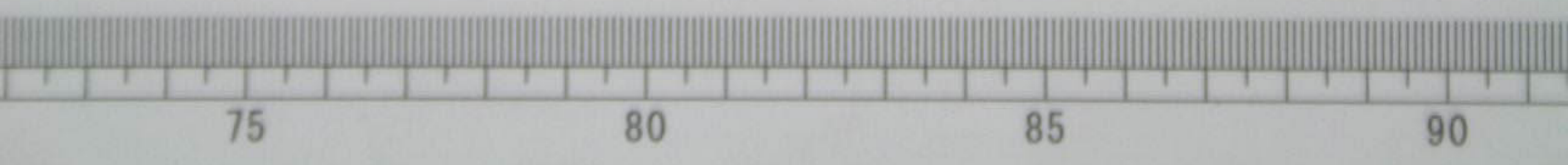
にきてば

金子薫園

朝の膳カウへ
鎌倉上マトは
新
布



梓



霧の中に虚子の姿を人 ~~見~~ 探指しせず
 同じ汽車に乗る
 妻子の健康の聲を ~~人~~ 探指しせず
 朝多廣の ~~お~~ 白砂
 松かせは鳴りのおに蒸しあつし草舎をこ
 ちる ~~お~~ 百合のほ
 百合を ~~お~~ 挿したる妻のすう ~~お~~ 花盛りあ
 かりさおしく ~~お~~ ある
 百合に瓶に草舎の ~~お~~ 水
 水 ~~お~~ して

鎌倉草舎の ~~お~~